

〔萬葉集十九〕慕振勇士之名歌一首并短歌○中  
安之比奇能八峯布美越左之麻久流情不障後代乃可多利都具倍久名乎多都倍之母○中

右二首追和山上憶良臣作歌

〔倭訓栞前編九〕ころがへ。人と我と心を易也古今集によめり、列子に既已變物之形又且易人之慮と見えたり、

〔古今和歌集十一〕題しらす

心がへする物にもかかたごひは苦しき物と人にしらせん

よみ人しらす

〔藤原元真集〕ひさしくこずとてふすべてこぬ人に、

かりそめの心くらべにあふ事の命もしらぬみとはしらすや、

〔源氏物語十三〕女はた中々やんごとなききはの人よりもいたう思ひあがりて、ねたげにもてなし聞えたれば、心くらべにてぞすぎける○下

〔散木弁訶集九〕恨躬耻運雜歌百首

沙彌能貪上

物思ひの心くらべのかた人になるともまけじたぐひなき身は

〔日本書紀十五〕白髮天皇○清二年十一月播磨國司山部連先祖伊與來目部小楯於赤石郡親辨新

嘗供物○一云巡行郡縣、適會縮見屯倉首、縱賞新室以夜繼晝○中 天皇次起自整衣帶爲室壽曰、築立

稚室葛根、築立柱者、此家長御心之鎮也、取舉棟梁者、此家長御心之林也、取置椽椽者、此家長御心之

齊也、取置蘆藿者、此家長御心之平也○下

〔倭訓栞前編九〕ころのせき。心の關也物に滞り結ふるをいへり、儒に誠意の人鬼關あり、釋に

悟道の無門關あり、

〔詞花和歌集十〕舍利講のつゐでに、願成佛道の心を、人々によませ侍けるによめる、